

平成30年度「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」(熊野市)の概要

平成30年8月26日(日) リゾートくまのくらぶ 里創人熊野倶楽部にて「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「熊野林星会」「一般社団法人熊野青年会議所」「熊野商工会議所青年部」の皆さんから、それぞれの活動や熊野地域への思いについてお話を伺いました。



自己紹介、団体の活動概要の紹介の後、知事とフリートークを行いました。

【参加者からの発言】

- Q 活動を通じてよかったこと、達成感を得られたことなどを聞かせてください。
- 熊野の自然を子どもたちに伝える事業を開催した際、準備は本当に苦労しましたが、参加した保護者の方から「こんな明るい我が子を見たのは初めてです。」という言葉をいただいたときはとても嬉しかったです。
 - 研修船「とうかい号」での経験など、青年会議所の活動は、大変な思いをしたからこそ得られる気づきが多いです。
 - 「熊野サミット」を通じて各団体が協力し合い、話し合っって行動を起こしています。このような連携は、他地域でも簡単なことではないと思っています。地域の課題を共通話題とすることで、他の団体や地域の方とのつながりが深くなりました。
 - 東紀州地域で高校生を中心にアンケートを実施し、約1,100名の意見を集約しました。その中で印象に残ったのは、「熊野が好き」という回答が多いにも関わらず、

暮らしたいと思う人が少ない現状があったことです。そのような現実の中で自分に何ができるのかを考えるようになりました。

- 初めて担当した事業は失敗したように思いましたが、仕事以外でこれだけ頑張ったことはなかったと思います。自己成長につながりました。
- 自分が子どもの頃は、木工コンクールの作品が体育館いっぱいに並び、とても盛り上がっていたように記憶していますが、大人になって地元に戻って来て見たコンクールは、規模がとても小さくなっていて悲しかったです。その後、自分も林星会の活動に参加するようになり、活動を工夫することで、だんだん盛り返してきたように思います。頑張っていることが成果に表れてきたことが嬉しいです。
- 子どもたちが「木のまち熊野」を知らない現実があり、小学校の木育の授業で話をしたりしています。「話がすごくよかったと子どもが言っていたよ。」という話を保護者の方から聞いたり、お父さんが原木市場で働いている子が、授業の後お父さんに「お父さんの仕事すげいやん！」と言っていたという話を聞いたときは、とても嬉しかったです。
- 子どもたちが楽しみながら林業について学べるよう、小学生を対象にした製材所経営のシミュレーションゲームを制作しました。仮想の製材所を作り、原木の目利きを覚えてせりをし、製材、販売をして対価を得るもので、擬似的ですが、経営を体験できるものになっています。
- 平成 27 年に 1 万 7 千人だった熊野市の人口は、平成 39 年には 1 万 2 千人になると推計されています。それを何とか 1 万 5 千人にするという目標を設定した第 2 次熊野市総合計画を目にしました。この目標を達成するために、「自分たちは何をすべきか」を皆で考えるきっかけづくりとして「熊野サミット」を開催しています。「熊野サミット」は今年 3 回目を迎えますが、皆で意見を出し合って各々の分野で目標を設定し、1 年間の活動の総括も行います。世代を超えて、高校生と大学生、そして大人と一緒に話すとても貴重な機会でもあります。

Q 今後の夢や課題について教えてください。

- 子どもたちが熊野の自然を体験するキャンプを復活させたいです。
- 「熊野サミット」などをツールとして、他人事ではなく自分事として地域のことを考える仲間を増やしていくことが課題です。
- 一度は県外などに出ても、また地元に戻って来てもらえるよう、自分が U ターンした理由などを高校生に語っていきたいと思います。
- 現実的に、若者が熊野に戻って来たくても仕事がなければ帰って来られないので、自分たちが商売を成長させ、毎年雇用を創出していけるような会社にしていかなければならないと思っています。
- どういう木育が効果的なのかまだ模索中ですが、学問として効果的なプログラムを作り、教育現場で取り入れてもらえるよう取り組んでいきたいです。

【知事の発言】

- 皆さんが、具体的にどうするかを皆で考え、実行し評価するという取組は、行政としても大変ありがたいです。皆で具体的に目標値を定め、どうするかを考えるということは、すごく意味のあることで、行政任せではなく、自分が関与したまちづくりには、きっと納得感を感じるはずだと思います。
- 「熊野サミット」の話をお聞きして感じたのは、踏み出すのには時間がかかって難しいかもしれませんが、それが出来上がってルーティーンとなっていけば、具体的な成果が見えてくるのが早いのではないかと思います。
- 熊野の内外にチャンスはたくさんあると思いますが、チャンスは転がって来ることはありません。皆のパワーを結集し、アンテナを高くしてチャンスをつかみに行ってください。そのために皆さんはこのようなネットワークを作っているのだと思いますので、1年1年ベストを尽くして頑張してほしいと思います。



「熊野林星会」は、親子木工教室や木工作品コンクールを開催したり、小学生を対象に間伐体験を行うなど、熊野地域の林業のPRを行うとともに木育活動をしています。

「一般社団法人熊野青年会議所」は、「挑戦」をスローガンに、被災地でのボランティア活動や、防災意識を高める事業、青少年育成事業としてのスポーツ大会などを実施しています。

「熊野商工会議所青年部」は、「熊野サミット」などの開催を通じて、地域の皆が未来を考え行動するきっかけを作り、豊かで住みやすい熊野地域にするため活動しています。